

## 断りの発話行為の伝達効果について ——誘いに対する断りの理由を中心に

劉

珏\*・肖

志\*\*

### The communication influence of the speech act of refusal

Liujue, Xiaozhi

**Abstract:** The speech act of refusal has two types in terms of refusal reason. One is to explain the reason clearly by giving some real facts when a refusal speech act is directed at him/her. The other is to use ambiguous phrases when a refusal speech act is directed at him/her. These two types of refusal reason have different communication influence.

**Key words :** speech act of refusal, talk, communication influence, intention

#### 1. 研究の背景と目的

言葉遣いは人間関係を重んじている日本社会や中国社会ではきわめて重要な役割を果たしている。断りの発話行為は人間関係を損なう発話行為で、より敏感な存在でもある。受身の発話行為として、断りの伝達意図は表現者がはじめから持っているものではなく、誘いの上位の発話行為が提供した情報を理解し判断するプロセスから生み出したものだと考えられる。実際のコミュニケーションにおいて、誘われた側は誘い側に対して、「承諾」と「断り」という二つの発話行為を出す可能性があるかと推定できる。逆に言うと、その断りの発話行為に対しても、誘い側も「承諾」と「断り」という二つの答えを出す可能性があるだろう。断りの発話行為を承諾する場合、誘い側が自ら誘いをあきらめるが、それを受け止めない場合、もう一度誘いをもち出すのである。つまり、断りの発話行為は誘い側にも影響を与えていると考えられる。

本稿では、誘いに対する断りの発話行為を対象として、高い頻度に使われている「理由の説明」という断りの戦略の伝達効果、つまり、誘い側の発話行為にどのような影響を与えているのかを中心に、断りの発話行為と誘いの発話行為との間の関係を検討しようと考えている。

#### 2. 先行研究

誘いに対する断りの言語行動について、すでに多くの研究成果が見られている。重要な断りの戦略として、相手の意向に沿えない「理由の説明」が中国語でも日本語でも多用されている。語用論では、{弁明}{理由}の意味公式で表記されている。文(2004)

\* 中国広東工業大学

\*\* 教養部

の研究から、相手との力関係を問わず、日本語も中国語も{弁明}の意味公式が高い頻度で使われていることが分かった。李(1999)の研究によると、日本語母語話者は、主に{詫び}{理由}{不可}の意味公式を使用するが、中国語母語話者は、{詫び}{理由}{不可}{代替案}を欠かせずに使う傾向がある。また、日本語母語話者は、相手に拘らずに{理由}をかなり曖昧に述べている。それに対して、中国語母語話者は{理由}の説明が具体的に真実らしく相手に伝えようと努めていると論じた。

理由の説明には、はっきりとする具体的なものとはっきりとしない曖昧なものがあるが、具体的な理由の説明と曖昧な理由の説明がそれぞれどのように誘い側に情報を伝え、その伝達意図に影響しているのか。

### 3. 断りの理由における表現意図と伝達意図

何自然(2006年)は、「話し手がコミュニケーションにおいて次の二つの意図をもっている」と指摘している。

a) 情報を伝える「表現意図」。

b) 情報を伝える目的を表明する「伝達意図」。

話し手は聞き手に、情報を伝えるとともにある伝達意図も伝えている。聞き手は話し手の話から必要な情報を取り出して、自分の認知を変えるのである。

例(1)(A、Bは日本人同士)

A: いいお天気ですね。明日ハイキングに行きませんか。

B: ごめんなさい。実は、明日は試験がありまして…

A: あ、そうですか。勉強は大変ですね。頑張ってくださいね。

例(1)では、Bの答えに次のような表現意図と伝達意図が潜んでいる。

B: ごめんなさい。実は、明日は試験がありまして…

相手の意向に沿えないことへの謝罪      理由説明…………… (表現意図)

人間関係への損害度を減らす。      誘いを断る。…………… (伝達意図)

それに対して、Aの答えは、次のような表現意図と伝達意図が含まれている。

A: あ、そうですか。勉強は大変ですね。頑張ってくださいね。

相手への理解・同情      相手を励ます…………… (表現意図)

誘いをあきらめる…………… (伝達意図)

人間の発話行為は情報を伝える行為で、例(1)では、聞き手としてのBは次のような情報を提供している。

B: 謝り。明日は試験がある。

Bはこの情報提供によって、相手に誘いをあきらめてもらうように望んでいる。聞き手としてのAは、Bが提供した「試験がある」という情報と自分が提供した「ハイキングに行く」という情報との間に矛盾が存在すると認知し、「試験があるから遊ぶ場合ではない」と判断して、Bの断りの伝達意図が分かる。

例(2)(A、Bは日本人同士)

A: いいお天気ですね。明日ハイキングに行きませんか。

B: 明日はちょっと都合が悪くて…

A: そうですか。じゃあ、また今度ご都合のいい時行きましょう。

例(2)ではBとAはそれぞれ次のような表現意図と伝達意図を持っている。

B: 明日はちょっと都合が悪くて…

理由説明…………… (表現意図)

断り…………… (伝達意図)

A: そうですか。じゃあ、また今度ご都合のいい時行きましょう。

誘いを延期する…………… (表現意図)

誘いをあきらめる…………… (伝達意図)

聞き手としてのAは、Bが提供した「明日の都合が悪い」という情報と自分が提供した「明日行く」という情報との間に矛盾が存在すると認知し、Bの断りの伝達意図がわかるのである。

このような場合、「試験がある」「都合が悪い」は相手の意向に備えない理由とされていて、どれも「明日はハイキングに行かない」という意味を表している。しかし、この二つの理由は同じ伝達効果を持っているのであろうか。

#### 4. 具体的な理由と曖昧な理由

##### 4.1 具体的な理由

「試験がある」ことは話し手の力で変えない、やむを得ずに受け止めなければいけない事実である。話し手はこれを理由にする伝達意図は「断り」以外に、「行けないのは自分の主観的な原因ではなく客観的な条件に制限されているから、自分も受身の存在」という副次的な表現意図を伝えようとしている。それで相手の配慮意識を喚起しているのである。

B: ごめんなさい。実は、明日は試験がありまして…

相手の意向に沿えないことへの謝罪 理由説明…………… (表現意図)

人間関係への損害度を減らす。 誘いを断る…………… (伝達意図)

自分も受身の存在…………… (副次的表現意図)

相手の配慮意識を喚起…………… (副次的伝達意図)

A: あ、そうですか。勉強は大変ですね。頑張ってくださいね。

相手への理解・同情 相手を励ます…………… (表現意図)

誘いをあきらめる…………… (伝達意図)

共感の伝達…………… (副次的表現意図)

相手への配慮…………… (副次的伝達意図)

前にも述べたように、李(1999)は誘いに対する断り方略に、日本語は理由を曖昧にするのに対して、中国人は理由を具体的にする傾向が見られると指摘している。

例(4) 明天我得陪小张上一趟街，她说让我给她参谋参谋。

真不巧，有个朋友从北京来，我得陪她去办事。

明天我有考试，考完都得到中午了。

例(4)では、いずれも具体的な事情を述べて、しかもなるべく詳しく叙述し、特に自分の客観的な事情に拘束されている立場を強調している。

しかし、具体的な理由の説明は中国語特有のものではない。日本語にも多用しているが、例(5)のようになるべく簡単に曖昧に情報を提供する傾向がみられる。その点では中国と鮮明な対照となっている。

例(5)明日は主人の誕生日なので…

明日は実家に帰らなくちゃ…

実は明日は先約がありまして…

B&L はポライトネス理論で社会の理性的な成人が自分の欲求が少なくとも何人かの人に受容されることを望む「ポジティブ・フェイス」を持っていると指摘している。自分は客観的な事情に拘束され、いわば受身的存在であると表明し、その弱みを相手に見せる発話行為は誘われた側が相手に同情してほしい、言わば共感を求める欲求だといえよう。一方、この「受身的存在」の表明は受身的発話行為の主体である断り側をより弱い立場に立たせると同時に、能動的発話行為の主体である誘い側をより強い立場のほうに押し付ける。こうして、誘い側と断り側の利益関係のバランスが崩れてしまう。誘い側は両者の利益関係を均衡するために、相手への配慮を念頭において、理解・同情と励ましを表すことによって、共感を伝え、誘いをあきらめたのであろう。こうして、断り側は客観的な事実を理由にすることによって、断りによる FTA を弱めることができ、断りの伝達意図も実現させたのである。

#### 4.2 曖昧な理由

例(2)では、誘われた側は「都合が悪い」という曖昧な理由で断りの伝達意図を伝えている。B&L はポライトネス理論で人間は他者に邪魔されたくないという「ネガティブ・フェイス」も持っているとして指摘している。はっきりと言えない理由、人に言うてはいけない理由、或いは、相手の主張と反する主観的な理由などをはっきりと述べることは、自分の「ネガティブ・フェイス」に傷つくことで、それを説明するとき曖昧な表現でごまかすのであろう。このような曖昧な表現は理由説明のほかに、「理由をはっきりとしたくない」という主観性の強い副次的な表現意図も伝えていて、その底には相手に邪魔されたくないという副次的伝達意図とが存在している。

B: 明日はちょっと都合が悪くて…

理由の説明…………… (表現意図)

誘いを断る…………… (伝達意図)

理由をはっきりとしたくない…………… (副次的表現意図)

相手に邪魔されたくない…………… (副次的伝達意図)

このような意図の伝達によって、誘い側に誘いをあきらめさせた。

A: そうですか。じゃあ、また今度ご都合のいい時行きましょう。

誘いを延期する…………… (表現意図)  
誘いをあきらめる…………… (伝達意図)  
相手の希望を尊重する…………… (副次的表現意図)  
相手を邪魔しない…………… (副次的伝達意図)

抽象的な理由は内容をはっきりしないという特徴を持っているが、「都合が悪い」はその典型的な例である。誘いに対する断りを表す慣用表現として日本人に多用されている。「用事がある」「急用ができて」などもその例である。

本研究では、中国人を対象に、「明天有点不方便」の返事について、談話完成テスト D.C.T (Discourse Completion Test) を用いて、アンケート調査を行った。面白いことに、日本語の場合と違う結果が出てきた。中では、「時間の調整」という意味公式の多用が目立ってくる。

例(6) (AB: 中国人)

A: 明天一起去郊游吧?

B: 我明天有点不方便。

A: 那后天呢?

ここでは回答者は誘われた側の伝達意図を次のように推理している。

B: 明天有点儿不方便。

理由の説明…………… (表現意図)  
時間帯に対する断り…………… (伝達意図)  
他の時間なら行ける…………… (副次的表現意図)  
時間調整の暗示…………… (副次的伝達意図)

A の答えはこのような推理に基づいて生まれたものであろう。

A: 那后天呢?

他の時間の都合を聞く…………… (表現意図)  
誘い…………… (伝達意図)  
相手の希望を尊重する…………… (副次的表現意図)  
時間の調整…………… (副次的伝達意図)

中国語の「明天有点儿不方便」は断りの固定表現ではない、それは誘いに対する答えとして使われるとき、相手に時間の不都合を暗示している。逆に、相手は時間の調整を言わずにあっさりと誘いをあきらめると、誘われた側はがっかりすることもある。それは、時間の調整に対する努力の姿勢を見せないことは、必ずしもこの人を誘わないといけなわけではないことを表明していると思われるからである。つまり、誘いの誠意が足りない。この意味から見ると、中国語の「明天有点儿不方便」は誘う行為に対する断りではなく、提案された時間に対する部分的な断りで、調整すれば承諾する可能性が高い場合に使うものである。

## 5. まとめ

具体的な理由は客観的な事実に基づいて情報を提供しているため、より説得力のある断りストラテジーであるが、曖昧な理由説明は事実をはっきりしないため、客観性が欠けている。日本語の「都合が悪い」は誘いを断る伝達効果をもっているが、中国語の「有点儿不方便」は誘う側に「調整」の伝達意図を生じさせる伝達効果がある。

人の誘いを断る行為は「他者に好かれたい、承認されたい」と望む人間のポジティブ・フェイスを脅かす FTA に該当するもので、誘い側の利益を損害する言語行動である。藤森(1994)は弁解と理由の意味公式に自分の領域の保全を要求するという意味役割があると指摘している。李(1999)は、日本語も中国語も、聞き手との摩擦や不快状況などを回避し、人間関係を均衡に修復するための発話行為がとられる傾向があると論じた。断り側が、如何に自分の領域を保全し、誘い側のポジティブ・フェイスを保つことを考えなければならないのである。断りの発話行為の伝達効果を考察するとき、「断り」の目的に達したかどうかのみに注目するのではなく、そのストラテジーは誘い側と誘われた側の利益を均衡させたかどうかとも考えなければならない。

#### 参考文献

- 藤森弘子(1994)「日本語学習者にみられるプラグマティック・トランスファー——「断り」行為の場合——」『名古屋学院大学日本語学・日本語教育論集』, 1994, 1:1-19
- 1995「日本語学習者にみられる『弁明』意味公式の形式と使用——中国人・韓国人学習者の場合——」『日本語教育』第87号: 79-90
- 1996「関係修復の観点からみた『断り』の意味内容——日本語母語話者と中国人日本語学習者の比較——」『大阪言語文化学』Vol. 5. : 4-17
- 李威(1999)「日・中・韓母語話者の『断り』行為の対象研究」日本語教育学会秋季大会口頭発表
- 文鐘蓮(2004)「断り表現における中日両言語の対照研究」『人間文化論叢』第7巻: 123-132
- 何自然(2006)『認知語用論——言語交際的認知研究』上海外国語教育出版社: 108

#### 付記

本稿は下記の助成金によって完成したものである。

- ・2007年度兵庫県 HUMAP「HORN 事業」の助成金
- ・2007年広東工業大学(中国)教育改革研究プログラムの助成金

#### ● プロフィール

劉珏 (Liu Jue)

中国・北方工業大学日本語学部日本語専攻卒業、湖南大学日本語学部日本語と中日翻訳理論の専攻を経て、現在中国・広東工業大学外国語学部日本語科専任教師、日本語科主任、兵庫県友好親善大使。

(平成20年3月31日受理)